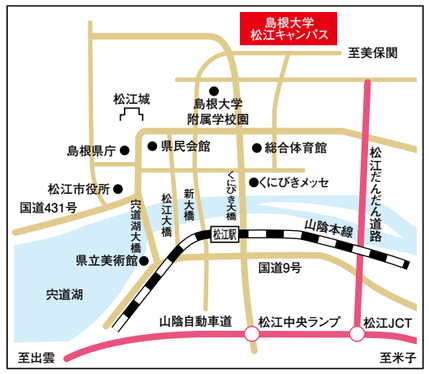


飛行機

札幌―米子空港	2時間00分
茨城―米子空港	2時間40分
東京(成田)―米子空港	1時間30分
東京(羽田)―出雲空港	1時間20分
東京(羽田)―米子空港	1時間20分
大阪―出雲空港	1時間00分
神戸―米子空港	45分
福岡―出雲空港	1時間05分
那覇―米子空港	2時間00分

JR

東京―松江	5時間40分
大阪―松江	3時間20分
岡山―松江	2時間20分

自動車

大阪―松江	4時間00分
岡山―松江	3時間00分
広島―松江	2時間30分

島根大学 教育学部

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060

TEL.0852-32-6251 FAX.0852-32-6259

http://www.edu.shimane-u.ac.jp/

学部案内 2015

全国初の教員養成専門学部

島根大学 教育学部

教師になる！

自分がそしてこれからの子どものこころにあこがれた、かけがえのないその人になるために必要な、

あなたの情熱とこれからの　時代に、真正面から応える。

島根大学教育学部は、「21世紀の教育改革と学校教育が求める教育的課題を積極的に担う学部」、「変革の時代に対応した新たな教師教育を実現する学部」を目指し、平成16年度に、教員養成に特化した専門学部として新たなスタートを切りました。ますます複雑化・多様化する社会の中で教員に求められるのは、教職への限りない情熱と、さまざまな教育的課題に対応できる優れた教育実践力です。本学部は、教職を志望する一人ひとりの情熱をしっかり受けとめ、その実現に必要な教育実践力を育成するための独自の教育基盤を構築し、21世紀の教育を担う教員を育てています。

学部長メッセージ

教育学部長
小川 巖

未来を担う子どもたちの成長に関わる教師は、高度で専門的な知識・技術に加え、社会人としてのしっかりとした基盤を備えていなければなりません。平成16年に鳥取大学教育学部との再編統合により山陰地域で唯一の教員養成専門学部となった本学部は、地域と連携して、これからの時代に求められる教師を育てています。地域のさまざまな教育現場で体験を積み上げていく「1000時間体験学修プログラム」をはじめ、学修の成果や課題を可視化して学生と教員が共有し、教師への育ちに生かす「プロファイルシートシステム」、地域の各界の方々に面接指導をしていただく「面接道場」など独自の教育システムを通じて、教師になるために必要な力を総合的に育成しています。これらの取り組みは地域に浸透し、本学部の学生への評価や期待はますます高まっています。生涯をかけるに値する魅力にあふれた教師という職業を将来の進路にすえて、その夢を本学部でさらに大きく育んでみませんか。夢の実現を私たちは全力でサポートします。

CONTENTS

学部長メッセージ、教育目標、DP、LO …… 1
NEWS［島根大学教育学部の最新動向］…… 3
教育の特色 …… 5
カリキュラム …… 10
専攻、大学院 …… 11
附属施設 …… 16
施設設備・支援体制 …… 17

1 教育目標

子どもへの深い理解と愛情、教職への真摯な意欲と情熱を基盤としながら、21世紀の学校教育を担う教師に求められる「教師力」を身につけることを教育目標とします。

2 卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

基準となる単位数を修得し所定の体験時間数を経験することで、次の資質・能力を身につけたと認められる学生に対し卒業を認定し学位（学士（教育学））を授与します。

- 幅広い教養と専門的知識を身につけ、学校教育について深く理解することができる。
- 学校教育に関連する多様な事象について、深く考え判断することができる。
- 現代社会の教育的課題に関心を持ち、解決に向けて意欲的に行動することができる。
- 身につけた教育的技能を人間育成に関わるあらゆる場面で発揮し、社会に貢献することができる。

3 学修到達目標（ラーニング・アウトカム）

島根大学教育学部では21世紀の学校教育を担う教師に必要な能力の総体を「教師力」と呼び、全ての教育活動を通してその育成を目指しています。具体的には次の3領域における10項目からなる「教師力」を学修到達目標として設定しています。

教育実践力 学習者を理解し、身につけた知識や技能で教育を実践する力。	学校理解	学校での教育実践を広く社会的な制度や歴史の中に位置づけてとらえたり、授業や一人ひとりの子どもへの指導の基礎となる学級を経営したりすることができる。
	学習者理解	一人ひとりの学習者の特性に沿った必要な支援を行ったり、発達段階をふまえた指導を行ったり、学びを深め合う学習集団を組織したりすることができる。
	教科基礎知識・技能	各教科等の指導内容や、その基盤となる専門領域に関する知識や技能を身につけている。
	授業実践	的確な教材分析をふまえて授業を構想・実践したり、授業をふりかえって評価したりすることができる。
対人関係力 相手や目的に応じて適切なコミュニケーションを行う力。	リーダーシップ・協力	大学における学習・研究や体験学修、社会参加など、集団活動の場面において、リーダーシップをとったり、協力したりすることができる。
	社会参加	社会的な要請や自己の関心・専門性に応じて、社会的な活動に参加することができる。
	コミュニケーション	子どもと関わる場面や社会的な場面、研究的な場面のそれぞれにおいて、相手や目的に応じて、適切なコミュニケーションを行うことができる。
自己深化力 必要な情報を様々な方法で探したり発信したりして、自己の知識や能力を深める力。	探求力	自己の興味や関心にしたがって、専門的な領域や特定の問題についての問題意識や知識・能力を深めることができる。
	教師像・倫理	社会人としての人間観・倫理観を基盤としながら、教師として特に必要な倫理観や理想とする教師像を持ち、それらに照らして日常の教育実践をとらえることができる。
	リテラシー	社会的あるいは専門的な情報について、様々な方法で受容したり発信したりすることができる。

NEWS ［島根大学　教育学部の最新動向］

さらに進化する教員養成専門学部。

NEWS. 1

「音楽教育連携推進室」を設置。

本学部は昭和29年に中国地方で唯一の特別教科音楽教員養成課程が設置されて以来、優れた音楽科教員を数多く送り出してきました。また、島根県は石見神楽や佐陀神能（2011年ユネスコ無形文化遺産登録）、安来節など伝統音楽文化の宝庫であり、学校における合唱や吹奏楽活動も盛んで全国に誇る水準にあります。一方で、山陰地域では少子高齢化が急速に進み、音楽活動の後継者不足や小編成化への転換といった課題に直面しています。そこで、島根大学では伝統音楽文化や学校音楽文化の継承と発展を担う音楽科教員を養成するため、文部科学省の特別経費プロジェクトの採択を受け、「山陰の音楽文化資源活用による資質の高い教員養成プログラム開発―少子化への対応と地域のソーシャル・キャピタルにつなぐ―」をスタート。平成25年7月に本学部内に音楽教育連携推進室を開設し、音楽教育専攻の教員と学生が参加して、和太鼓のワークショップ、地域の特別支援学校での楽器体験といったさまざまな活動に取り組んでいます。

NEWS. 2

「臨床心理特別副専攻」を新設。

学校教育現場では、子どもたちが抱える多様な心の問題を的確に理解し、適切な支援を行うため、臨床心理学の知見が求められています。そこで、平成 24 年度、「臨床心理特別副専攻」を新設しました。まず 11 主専攻（コース）のどれかに所属し（P11 参照）、教師になるための基盤をしっかり築いた上で、この特別副専攻を選択することにより、「子どもの心を深く理解し、臨床心理学的支援ができる教師」を目指します。また臨床心理学の専門的な授業科目をこれまでより多く履修できる特別副専攻なので、島根大学大学院教育学研究科（臨床心理コース）に進学し、将来、スクールカウンセラーや病院・児童養護施設などで活躍する臨床心理士を目指すことも可能です。（これに伴い、従来の「心理・臨床専攻（主専攻）」は廃止されました。）

自分のイメージを表現する箱庭療法の道具

カウンセリングを行う相談室を設置

子どもへの遊戯療法を行うプレイルーム

NEWS. 3

快適かつ充実した学習環境へ教育学部棟がリニューアル。

平成20年、教育学部棟のリニューアルが完了。教員養成専門学部へと組織や教育体制を変革した本学部は、ソフトだけでなくハード面も新しく生まれ変わりました。きれいな外観やエントランスが心地よく迎えてくれるとともに、各種教室や施設設備が充実。快適な学習環境が学生のやる気に応えます。

詳しくは P17

NEWS. 4

最新PCを備えたICTルーム「金魚鉢」。

平成22年2月、教育学部棟2階に、パソコン14台を備えたICT（Information and Communication Technology）ルームが新しくオープンしました。ガラス張りの開放感あふれる室内に、オレンジやレモンイエローのカラフルないすやソファーが並ぶ部屋の愛称は「金魚鉢」。共用スペースと個人用ブースがあり、パソコンを持ち込んでLANにつなぐことも可能です。平日の午前9時から午後9時まで自由に入室でき、インターネットを利用しながらのグループワークや自習など、さまざまな用途に活用されています。

NEWS. 5

学部独自のノウハウで『教員採用試験受験テキストブック』を作成。

教員採用試験に合格するために必要な基礎的・基本的な知識・情報・方法や試験対策などをまとめた『教員採用試験受験テキストブック』を平成24年度から発刊し、学生に配付しています。これは、平成18年度以来、教育学部が発刊してきた5冊の『教員採用試験受験ハンドブック』の内容をふまえたもので、先輩たちや教育学部就職支援担当の教員によって蓄積されてきたノウハウのエッセンスがふんだんに盛り込まれています。教育学部では学部全体として教員採用試験対策を支援していますが、大切なことは、学生一人ひとりが就職後の生き方についてしっかりとした考えを持ち、そのために必要な真の実力を身につける努力をどれだけ積み重ねることができるかという点にあります。本テキストブックは、学生のこのような自主的な取り組みに活用されています。

教育の
特色①

独自の教育システムで、優れた「教師力」を育む。

128単位の授業科目のほかに1000時間の体験学修を卒業要件として必修化し、子どもたちに確かな教育を実践できる「教師力」を育みます。また、「教師力」をさらに向上させるためのさまざまな教育プログラムや評価システムも実施。それらのすべてをより良いものにしていくために、附属FD戦略センターが中心となって常に改善に取り組んでいます。

「教師力」を可視化する
プロファイルシートシステム

目指す「教師力」を「教育実践力」、「対人関係力」、「自己深化力」の3分野10の軸で表現。Webシステムを使ったさまざまな評価によって描かれる10角形のプロフィールを各学年の節目でチェックします。さらにこのプロファイルシートに基づいて指導教員が学生一人ひとりと面談することで、身についた教師力や自分の課題を明確にすることができます。この独自の評価システムは、現在、特許出願中です。

「社会の期待」と真剣勝負
面接道場

社会の第一線で活躍している「働くことのプロ」が学部教育活動評価委員会を構成。その前でセルフ・プレゼンテーション（自己紹介）とグループ・ディスカッション（集団討論）を行い、直接指導を受けるのが「面接道場」です。3年次の全員がこの面接道場を受けることによって、自己の成長と課題を具体的に把握できます。

セルフ・プレゼンテーション

大学生活で力を入れてきたこと、教育実習に向けた課題、教師や社会人としての目標などを1人2分程度で発表。評価委員が、その内容や姿勢についてアドバイスします。

グループ・ディスカッション

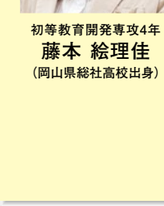
評価委員から提示された課題について集団討論を実施。討議の内容や進め方について、評価委員から講評をいただきます。

振り返り

班別に面接道場の事後分析を行い、教職への意識を高めます。

教師になるためのさらなるスキルアップ
教師力パワーアップセミナー

3・4年次になると、いよいよ教員採用試験を受けて、教職に就く時が近づいてきます。このセミナーは、そのような時期の学生自身が、それぞれの課題を明確化し、教師力をさらに高めていくために、年5～6回程度、開催されるものです。合宿形式や、実際の試験会場さながら、大学外で実施される模擬面接の練習などもあります。



初等教育開発専攻4年
藤本 絵理佳
（岡山県総社高校出身）

採用試験に向け前進できた合宿セミナー。

出雲市の「サン・レイク」で行われた教師力パワーアップセミナーに参加しました。1泊2日の日程で、教員採用試験に向けた自己PR文の作成、面接の練習などに取り組みました。自己PR文の作成は、自分を見つめ直すきっかけになるとともに、単なるPRではなく、それを教師としてどう生かすかまで考えて文章をまとめる訓練ができました。先輩や現職の先生方と話をする場も設けられ、採用試験に合格するために何が必要か、どんな教師が求められるかなどを直接伺い、気持ちを新たにしました。また、みんなの頑張る姿を見て刺激になり、ここでの出会いを通じて共に目標を目指せる仲間ができたのも成果でした。

地域社会に向けて発信しよう
オープンキャンパス ―学生フォーラム―

平成23年度から「オープンキャンパス」において、高校生に向けた発信を行っています。学生が1000時間体験学修で得た学びを発表し、会場にいる参加者からの質問に応じる等、島根大学の特色である1000時間体験学修についての情報発信を行っています。

■平成25年度プログラム（抜粋）

開会式

体験活動発表

基礎体験領域	小学校学習支援活動について 自然体験キャンプ・環境寺子屋について 震災ボランティアについて
学校教育体験領域	「学校教育実習Ⅰ」での学び

閉会式

教育の
特色②

全国で唯一の「1000時間体験学修プログラム」。

教員としてどのように子どもや保護者と接していくのか、どのように教育活動を行うのか…。教育現場で直面する、このような実践的な問題に対応できる力を十分に養えないのが、理論的学修を中心とする従来の教師教育の限界でした。それを克服するのが、本学部の「1000時間体験学修プログラム」です。社会とのかかわり、子どもとのふれあいなどの体験の機会を、質・量ともに、これまでどの大学もなしえなかった豊かさで提供。多様な体験に裏打ちされた教育実践力を育みます。

	基礎体験	学校教育体験	臨床・カウンセリング体験
	■学校体験 ■子ども体験 ■地域体験	■学校教育実習 ■学校教育実践研究	■生徒指導・進路指導・保護者支援 ■子ども理解・学級集団形成 ■特別支援教育相談
必修時間	110	340	150
選択時間	400		

さまざまな教育活動や地域活動に参加して行う「基礎体験」、附属学校園での教育実習による「学校教育体験」、カウンセリングや教育相談などの実習を通して行う「臨床・カウンセリング体験」の3領域の体験学修を、4年間を通じてそれぞれ所定の時間に達するまで積み上げながら、教員として必要な教育実践力を身につけていきます。地域のさまざまな機関・団体との連携により、多くの活動内容を提供し、幅広い体験と充実した学修を可能にしています。

学内資格について 特定のプログラムに参加し、一定の基準に達した学生は、「学校教育サポーター」や「サイエンスマイスター」など、さまざまな「学内資格」の認定を受けることができます。

基礎体験

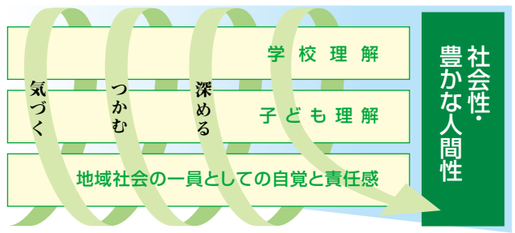
さまざまな社会的体験が、教員に必要な資質の土台を育む。

学童保育、社会教育、地域イベント、ボランティア活動、小・中学校での学習支援などの教育活動や地域活動への参加を通じて、子ども、地域、学校と主体的にかかわりながら、教員に必要な資質の土台となる社会性や豊かな人間性を養うのが「基礎体験」の領域です。地域の学校、社会教育施設、福祉施設、民間団体、NPO法人などが実施するさまざまなプログラムの中から、興味・関心のあるものに参加して学修を行います。活動を通して自分の課題に「気づく」、その課題の解決に向けた活動の方向性を「つかむ」、活動への取り組みを「深める」という段階を経ながら進めていくのが、学修の基本的な流れとなります。

育成する能力

学校とのかかわり	学校理解を深めることができる。
子どもとのかかわり	子どもに関心を持ち、積極的にかかわることができる。
地域社会とのかかわり	地域社会の一員としての自覚と責任感を身につけることができる。

学びのしくみ



体験の積み上げ

4年	約100時間	附属学校園および公立小・中学校等における学習支援活動などを含む選択活動。
3年	約100時間	
2年	約100時間	介護等体験（特別支援学校20時間、社会福祉施設40時間）の必修および選択活動。
1年	約100時間	入門期セミナーⅠ・Ⅱ計35時間の必修および選択活動。

■活動例（平成25年度実績）

松江市内放課後児童クラブ、附属学校園における学習支援活動、島根県・鳥取県内公立小中高等学校における学習支援、出雲市ウィークエンドスクール事業（出雲市教育委員会）、松江市学習支援員（松江市教育委員会生徒指導推進室）、夏休み勉強会（川本町教育委員会）、古代体験インストラクター（県立むきばんだ史跡公園）、八雲立つ風土記の丘「こどもまつり」（島根県立八雲立つ風土記の丘）、大山ふれあいキャンプ（鳥取県立大山青年の家）、キッズチャレンジ（島根県立青少年の家）、青少年のための科学の祭典2013島根大会（出雲科学の祭典実行委員会）、こっころサンデー（カラコロ工房）、ひだまりキャンプ（島根県ことばを育てる親の会）、子ども書道クラブでの指導サポート（日本現代書芸院）、あおぞら児童クラブ支援体験活動（あおぞら児童クラブ）、くにびき森のようちえん（くにびき自然学校）、島根県立武道館剣道教室（島根県立武道館）、わくわく子ども大会（安来市十神交流センター）、宍道町一周！チャレンジキャンプ（宍道湖西岸森と自然財団）（　）内は受け入れ協力先

学校教育体験

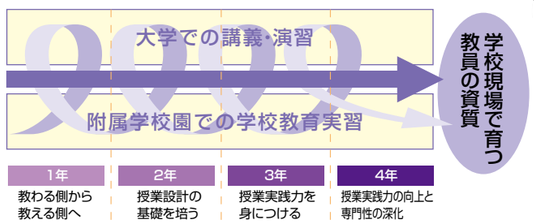
1年から4年まで継続的・体系的に学校教育実習で学ぶ。

附属幼稚園・小・中学校での340時間を必修とする充実した教育実習を通して、教員に必要な教育実践力や資質を身につけていくのが「学校教育体験」の領域です。教育実習は、4年間を通じて、子どもとのふれあい体験、授業観察、授業計画・設計、授業実践、学級経営のトレーニングなどの段階を踏みながら体系的に行われます。また、大学の講義や演習で学んだことを教育実習で生かしたり、教育実習で得た疑問や関心に基づいて大学での研究を進めたりするなど、理論的学修とリンクさせながら学びを深化させ、スパイラル的に教育実践力や資質の向上を目指しているのも特徴です。

育成する能力

授業を観察・分析する力	授業の観察記録をとることによって、分かりやすい授業ってどんな工夫があるんだろう?について考える。
授業を構想する力	自分で授業をしたらどんなことに気をつけて授業を計画すればよいのだろう?について考える。
授業を実行する力	実際に子どもの前で授業を行い、子どもが分かる授業ってなんだろう?について考える。

学びのしくみ



体験の積み上げ

4年	学校教育実習Ⅵ 40時間（選択）	3年間の実習を基礎に、より高度な目的を持った学生が選択する教育実習です。①専門性の幅を広げるために異校種等で行う副免許取得型、②自分の専門性を深める主専攻深化型の2つがあります。それぞれの目的に応じて1週間の実習を行います。
3年	学校教育実習Ⅴ 40時間	学校教育実習Ⅲ・Ⅳと異なる校種で実習を行います。さまざまな年齢層の子どもに接することにより、子どもの成長・発達をより豊かに理解します。
	学校教育実習Ⅲ・Ⅳ 200時間	主専攻に対応し、附属小・中学校で教育実習を行います。教科指導に力点を置くとともに、学級経営にかかわる教育実践的トレーニングを行い、教職への深い理解と基礎的な実践力の育成を図ります。（幼稚園一種免許型の学生は、公立・私立幼稚園で実習を行います。）
	学校教育実践研究Ⅱ 30時間	「学校教育実習Ⅲ・Ⅳ」に向けて、学校生活における児童・生徒とのかかわり方や指導の方法について具体的な場面（例：登下校・掃除指導）からロールプレイなどを通して学びます。また、教科の授業実践に向けて教材作成のトレーニング、指導案作成、模擬授業を行います。
2年	学校教育実習Ⅱ 20時間	附属学校園での教科（保育）指導を中心とした観察実習です。主専攻に対応する校種・教科の授業観察や附属学校の研究会への参加を通して、授業記録方法の習熟、教科指導の視点の獲得などを目指しています。また、模擬授業演習などにより、授業（保育）設計のための基礎を培います。
1年	学校教育実習Ⅰ 20時間	附属学校園での5日間の観察参加実習です。子どもたちとのふれあい体験や授業（保育）観察を通して「教員としての立場」から学校を把握し、教職への理解を深めます。
	学校教育実践研究Ⅰ 30時間	授業記録の取り方や授業についての協議の進め方など、基本的な知識や技能を学びます。体験や演習を中心に、教員として必要な基本的なコミュニケーション能力を高めます。

臨床・カウンセリング体験

3つの視点から「カウンセリングマインド」を育てる。

「カウンセリングマインド」とは、相手の気持ちを理解し、相手の気持ちに添ったかかわりや支えができる知識・技能・態度のこと。「臨床・カウンセリング体験」の領域では、教育現場で求められる「カウンセリングマインド」を養います。「生徒指導・進路指導・保護者支援」、「子ども理解・学級集団形成」、LD児・ADHD児など特別な支援の必要がある子どもとその保護者を対象とした「特別支援教育相談」の3つの視点から、実習を中心に学びます。実習は、相談場面を想定した2人1組で、聞き手と話し手の役割を決めて話し合うロールプレイ、自分や相手の特性に関する気づきを促すグループワークなどを通じて行われます。

育成する能力

カウンセリングマインド	相手の気持ちを理解し、相手の気持ちに添ったかかわりができる。そんなカウンセリングの知識・技能・態度。

学びのしくみ

【生徒指導・進路指導・保護者支援（C系）】

体験の積み上げ

3年	後期	実習③「特別支援教育相談実習」【20時間】
	前期	実習①「C系」【20時間】または 実習②「G系」【20時間】
2年	後期	講義Ⅰ「生徒指導論・進路指導論」（初等）【30時間】 講義Ⅱ「教育相談の理論と基礎」（中等）【30時間】 実習①「C系」【20時間】または実習②「G系」【20時間】
	前期	講義Ⅰ「生徒指導論・進路指導論」（中等）【30時間】 講義Ⅱ「教育相談の理論と基礎」（初等）【30時間】
1年	前期	講義Ⅲ「特別支援教育基礎」【30時間】

「C系」…個人（子ども・保護者）に対する支援（Counselling）を想定した実習。
「G系」…学級集団形成など集団における支援（Group approach）を想定した実習。

※実習①「C系」、実習②「G系」の実習は、2年後期にC系から受講するグループと、G系から受講するグループに分かれて実施します。
※実習③「特別支援教育相談実習」は、2つのグループに分かれ、それぞれ異なる開講日時に受講します。子どもや保護者に対してどのような支援内容や方法が必要かなど、数班に分かれて個別ケースに対応する支援案を協同作成します。

プログラム体験談

基礎体験

言語教育専攻・英語教育コース3年
日下 真夕子
（島根県出雲高校出身）

普段はできない体験を通して成長。

不登校の子どもたちとふれあうキャンプ、フィリピン人の中学生への日本語指導、ドイツ人の大学生と共に企画・実施する小学生を対象とした異文化交流など、普段はあまり交流がない人とかかわることを心掛けて、プログラムに参加しています。継続的にかかわっていくことで、心の距離が縮まり、理解し合えるようになることを実感しています。将来は小学校の教員を目指しているので、さまざまな体験を通じて、多様な個性を持つ子どもたちに対応できる実践力を養いたいと考えています。

学校教育体験

人間生活環境教育専攻4年
松浦 一樹
（島根県米子西高校出身）

教育実習で学んだ子どもとの接し方。

実際に子どもたちと接してみると、一言で幼児といっても3歳と6歳では全く異なり、同じ年齢でも一人ひとり違います。それぞれの発達段階や個性を理解し、気持ちを受け入れることの大切さを学びました。実践保育ではさまざまなことを想定して準備したつもりでしたが、それ以上のハプニングが起こって慌てました。どんな場面にも落ち着いて対応できるよう、普段から視野を広く持って思考や行動の幅を広げていきたいです。子どもたちから「楽しかった!」と言ってもらえたことは、これからの励みになります。

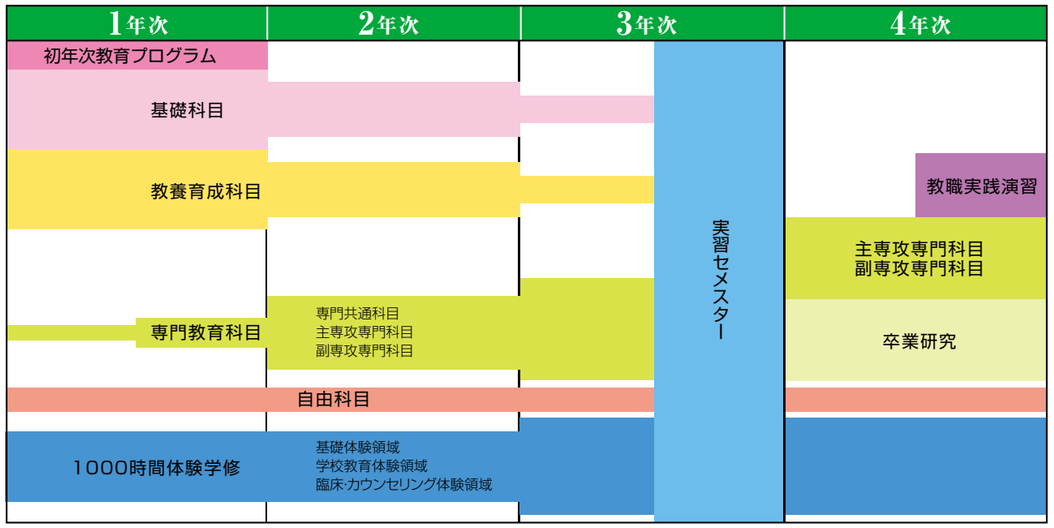
臨床・カウンセリング体験

初等教育開発専攻4年
飯島 愛
（島根県三刀屋高校出身）

教師になってからも役立つ学びがいっぱい。

自分が好きな物（人）、はまってきたこと、長く続けていることなどを書き出してみる「偏愛マップ」作成が印象に残っています。偏愛マップを使って自分のことがあらためてわかるとともに、相手の新たな一面も発見できたりしてコミュニケーションをとるのにも役立ちました。教師になってから、学級でぜひやってみたいと思いました。これに限らず、臨床・カウンセリング体験で学んだことには、教師になってからも活用できることが多くあるので、学級づくりや指導の中で生かしていきたいと思います。

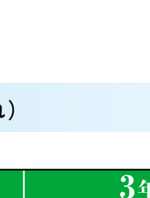
カリキュラムマップ（4年間の学びの流れ）



大学での学ぶ姿勢や学び方について指導を受ける初年次教育プログラムに始まり、1・2年次は基礎科目、教養育成科目、専門共通科目を中心に学びながら、幅広い視野・基礎的知識・技能など、豊かな教養を身につけます。3年次以降は専門教育科目を中心に各自の主専攻・副専攻に応じて専門的に学び、4年次にはその学修の成果をふまえて卒業研究に取り組みます。また、4年間を通じて充実した1000時間体験学修も並行して行い、実践的な力を養います。

大学生活のスタートをサポートする「入門期セミナーⅠ」。

入学後すぐに、1年生を対象とした「入門期セミナーⅠ」が「島根県立青少年の家」（サン・レイク）で1泊2日の日程で行われます。セミナーでは「1000時間体験学修」についての講義と演習を実施。演習では、2〜4年次生の先輩が工夫を凝らして自分たちの体験を発表。グループごとに先輩が1人付き、質問にも答えてくれます。また、さまざまなゲームやレクリエーション、自然の中での体験活動を通じて交流を深め、仲間意識や本学部生としての自覚を育みます。



共生社会教育専攻4年
浜谷 絃太郎
（富山県富山高校出身）

セミナーをきっかけに、不安や疑問は、やる気や楽しさに。

何だか大変そう…。それが、1000時間体験学修の最初の印象でした。入門期セミナーⅠで、先輩たちが実際の体験を基にした楽しい劇で紹介してくださったおかげで、その魅力を知ることができました。さまざまな体験を通して得られる力がたくさんあることが分かり、興味を持って積極的に取り組んでいきたいという気持ちになりました。ここで友達を作り、先輩に不安や疑問を直接聞いて解決することもでき、安心して楽しく大学生活のスタートを切れます。

教育実習と基礎体験活動を集中的に行う「実習セメスター」。

3年次後期は、体験学修を中心に行う「実習セメスター」として位置づけています。この期間は、附属学校園で5週間にわたって学校教育実習に取り組むとともに、それ以外の時間は基礎体験領域の活動として連携市町村の幼稚園・小学校・中学校などで、普段は参加することができない平日の授業中の学習支援等を体験。教科指導力や子ども理解を集中的に育みます。

あなたと子どもたちの未来へと続く学びがある。

専攻(コース)紹介

多様な学びを実現する主専攻・副専攻制

本学部には、学校の種類(小学校、中学校、高等学校、幼稚園、特別支援学校)や教科指導法を基礎に、教員を養成するための11専攻(コース)が設置されています。学生は、その中から、目指す学校・教科に対応する1専攻(コース)を主専攻として、さらにそれ以外の1専攻(コース)等を副専攻として選択。教育のプロとして必要な深い専門的知識と幅広い知見を身につけるとともに、複数の教員免許状を取得して将来の選択肢の幅を広げることもできます。専攻の決定は、I類の推薦入学者とII類入学者を除き1年次後期開始前(8月頃)に行います。I類主専攻(コース)の受入可能人数は、おおよそ初等教育開発専攻45名、人間生活環境教育専攻20名、他の主専攻(コース)15名程度です。

島根大学 教育学部

初等教育開発専攻

学べる分野／学校教育学、教育方法学、教育社会学、教育哲学、教育史、生涯学習、初等教科教育学(国語・社会・算数・理科・生活科・家庭・音楽・図画工作・体育)

～取得できる教員免許状～
小学校教諭一種免許状

■専攻の特色

初等教育開発専攻では、教員という職業を、教育に関する「理論」(知識)と教育を「実践する力」(技能)を教育現場で融合(駆使)する能力を持った専門家(プロフェッショナル)と定義しています。さらに、初等教育という幼い年代の子どもを教育することについての専門性も必要であると考えます。このような考え方に基づき、理論と実践の融合、初等教育についての高度な専門性の育成を目標に掲げ、教育現場の現状や課題を真正面から見据えたカリキュラムと教育プログラムを実施。これからの時代、社会に対応できる「小学校教育のプロフェッショナル」の養成を目指します。

特別支援教育専攻

学べる分野／特別支援教育学、知的障害児心理・病理、肢体不自由児心理・病理、病弱児心理・病理、発達障害

～取得できる教員免許状～
小学校教諭一種免許状・特別支援学校教諭一種免許状

■専攻の特色

心身に障がいのある幼児・児童・生徒などを対象に、一人ひとりに配慮した指導の基礎となる知識や指導力を身につけるために、教育学、心理・病理学および教育課程・指導法などの分野にわたる専門的カリキュラムを学びます。また、「障がいのある兄弟姉妹のいる子どもたちへの支援を考えるサークル」など学生による自主的な学習・ボランティア活動も盛んです。卒業時には、小学校教諭一種免許状と特別支援学校教諭一種免許状の取得が可能。高校や中等教育学校には特別支援学級がないことから、卒業後は知的障がい児、肢体不自由児、病弱児などを対象とした特別支援学校、小・中学校の特別支援学級などの教員として活躍できます。

主専攻で取得する教員免許状のほか、副専攻の学修を基に教育職員免許法に定められた単位を修得すると、幼稚園、小学校、中学校・高等学校(各教科)の免許状を取得することができます。

臨床心理特別副専攻

NEW 平成24年度 新設

他の11主専攻(コース)に所属した上で選択できる副専攻です(主専攻として選択することはできません)。主専攻の中で教師としての基盤をしっかりと作りながら、いじめ・不登校・対人関係の困難・問題行動・発達障がい…など、子どもの抱えるさまざまな問題を臨床心理学の視点から深く理解し、必要な支援ができる教師を目指します。学修を進めていく中で臨床心理学系大学院への進学の基盤を作ることもできます。(P3のNEWS.2参照)

在学生メッセージ

夢をさまざまな面から後押ししてくれる環境があります。

初等教育開発専攻4年
宮本 彩(島根県津和野高校出身)

小学校の先生になりたいという夢はありましたが、進学先などを決めかねていました。高校の担任の先生から1000時間体験学修プログラムのことを教えていただき、ここに決めました。1000時間体験学修プログラムでは、小学校の学習支援を通じて、子どもたちの成長に携われることにとても充実感を感じています。「教師になる!」というモチベーションはさらに高まり、先生方の授業を拝見することで自分の授業の構想も膨らみます。専攻は気さくな人たちばかりで、誰かが困ったり悩んだりした時は、みんながアドバイスや声掛けをする協力的な雰囲気があります。先生方も学生のことを全力でサポートしてくださいます。入学して良かったと実感する日々です。みなさんも、ここで教師への夢を育ててみませんか。

言語教育専攻 国語教育コース

学べる分野／日本語学、日本文学、漢文学、書写・書道、国語科教育学

～取得できる教員免許状～
中学校教諭一種免許状（国語）・高等学校教諭一種免許状（国語）

■専攻の特色

言語教育専攻・国語教育コースは、中学校と高等学校の国語の教員の養成を目指します。そのために、日本語学、日本文学、漢文学、書写・書道、国語科教育学の5分野に6人の教員が所属し、専門の授業や卒業研究などの指導を行っています。また、それぞれの教員の専門に応じて6つのゼミナール（略称「ゼミ」）が開かれており、学生は各自の興味や関心に合わせてゼミに参加し、発表や質疑応答などの体験を通して、より専門的な知識や研究方法を実践的に修得します。授業やゼミのほかにも、合宿研修や卒業生を交えた学会活動などがあり、楽しく意欲的に学んでいます。

言語教育専攻 英語教育コース

学べる分野／英語コミュニケーション、英語学、英米文学、英語科教育学、異文化理解

～取得できる教員免許状～
中学校教諭一種免許状（英語）・高等学校教諭一種免許状（英語）

■専攻の特色

言語教育専攻・英語教育コースでは、優秀な英語教員を養成するための体系的なカリキュラムを実施。1年次は言葉や文化について広い視点で学び、その魅力を再発見します。2年次からは英語教育学・英文学／比較文化学・英語学に関する専門領域を学びます。英語教育の理論と実践を学ぶことはもちろん、英米文学の原典を読んでその神髄に触れたり、コンピュータを利用した英語研究に取り組んだりします。会話や作文による英語運用能力の向上にも力を入れており、その成果を生かして米国の大学に留学したり、姉妹大学の短期セミナーに参加したりする学生も多くいます。

共生社会教育専攻

学べる分野／日本史、東洋史、西洋史、自然地理学、人文地理学、地誌、法律学、政治学、社会学、哲学、社会科教育学

～取得できる教員免許状～
中学校教諭一種免許状（社会）・
高等学校教諭一種免許状（地理歴史または公民）

■専攻の特色

卒業時には、中学校教諭一種免許状（社会）と高等学校教諭一種免許状（地理歴史または公民）の取得が可能。グローバルな視野と地域に根ざした実践力を備えた教員を養成することを目指します。そのために、教職に関する基礎的学力はもちろん、歴史学、地理学、哲学、社会学、社会科教育学などの専門分野に立脚した教科内容の研究能力を育成します。さらに、多文化共生、人権、自然との共生、地域社会と福祉などの現代的な課題も視野に入れ、実地体験や現地調査を行うことによって、社会科教育や総合学習の教材開発能力などの実践的技能を鍛えます。

主専攻で取得する教員免許状のほか、副専攻の学修を基に教育職員免許法に定められた単位を修得すると、幼稚園、小学校、中学校・高等学校（各教科）、特別支援学校教諭などの免許状を取得することができます。

在学生メッセージ

学びを深め、魅力ある授業ができる英語教員になりたい。

言語教育専攻・英語コース4年
関 裕美（岡山県高梁高校出身）

私は主専攻で中学校と高校の英語を、副専攻で小学校を選択しています。一つの学部でどの免許も取得でき、小学校の外国語活動から高校の英語まで長いスパンで生徒の発達段階を考えながら学べるというのは、とても恵まれた環境だと思います。ゼミでは英語教育学をテーマに選び、授業開発について研究しています。自分で調べるだけでなく、先生からアドバイスをいただいたり、学生同士で討論するなどして、学びをさらに深められます。模擬授業も興味を持って取り組んでいることの一つです。授業を受ける側から行う側へと視点や姿勢が変わり、新しい発見があります。将来は、子どもたち一人ひとりと真摯に向き合える思いやりと豊富な知識を持ち、魅力ある授業ができる中学校の英語教員になることが目標です。

数理基礎教育専攻

学べる分野／代数学、幾何学、解析学、応用数学、教育情報学、数学科教育学

～取得できる教員免許状～
中学校教諭一種免許状（数学）・高等学校教諭一種免許状（数学）

■専攻の特色

数理基礎教育専攻は、数学の教員を養成します。学生は、数学科教育法、代数学、幾何学、解析学、確率統計、コンピュータなどの科目を学びます。3年次からは研究室に分属され、各指導教員のもと、数学や数学教育の中の一分野を重点的に学び、また研究します。これらを通して、数学の基礎である論理的思考力や数式の操作能力などを身につけるとともに、数学についての興味と理解をよりいっそう深め、問題や課題、教材を見つける目をもち、的確な説明や指導ができるようになることを目指します。卒業時には、中学校と高等学校の教諭一種免許状（数学）を取得することができます。

自然環境教育専攻

学べる分野／物理学、生物学、地学、化学、理科教育学

～取得できる教員免許状～
中学校教諭一種免許状（理科）・高等学校教諭一種免許状（理科）

■専攻の特色

自然が豊かな山陰地域のフィールドを最大限に活用したカリキュラムを履修。中学校を中心に小学校・高等学校の理科教員に必要な自然科学に関する基礎的知識・技能や方法を身につけるとともに、子どもたちの知的好奇心を刺激し、自然を探究する楽しさを伝えることができる指導法や教材開発について学びます。3年生の後半からは各自の興味に応じて物理学・化学・生物学・地学・理科教育学の5教室に分かれ、担当教員の指導を受けながら卒業研究に取り組みます。この中で行う実験・観察や演習、論文講読などを通して、自然環境教育に関する研究能力や実践的指導力を磨き、大きな成長を目指します。

人間生活環境教育専攻

学べる分野／食物学、住居学、被服学、保育学、家庭経営学、家庭関係学、家庭科教育学、幼児教育学、幼児心理学、保育内容の指導法

～取得できる教員免許状～
中学校教諭一種免許状（家庭）・高等学校教諭一種免許状（家庭）・
幼稚園教諭一種免許状

■専攻の特色

幼稚園から中学、高校までの教員を養成する基礎に「くらし」「環境」「ものづくり」の3つを置き、カリキュラムを構成しています。すべての人が人間らしく快適で質の高い豊かな生活を創造するための知識や工夫について幅広く学ぶことができます。家政学を中心とした自然科学の知識を基盤にし、現代の教育現場のニーズに応える専門的知識を持った幼稚園教諭、乳幼児から中学、高校生までの幅広い知見を持った家庭科教諭の資質を身につけることができます。本専攻には上記の分野以外にも健康や木材加工、生物学等、多彩な専門家集団が所属し、実践的・理論的な授業を展開しています。

選択した副専攻ごとの取得可能な教育職員免許状

副専攻		副専攻の学修で取得可能な副免
初等教育開発専攻		小学校
特別支援教育専攻		特別支援学校
言語教育専攻（国語教育コース）	副専攻Ⅰ	中学校（国語）、高等学校（国語）
言語教育専攻（英語教育コース）		中学校（英語）、高等学校（英語）
言語教育専攻（書道コース）		高等学校（書道）
共生社会教育専攻	副専攻Ⅰ	中学校（社会）、高等学校（地理歴史）、高等学校（公民）
数理基礎教育専攻		中学校（数学）、高等学校（数学）
自然環境教育専攻		中学校（理科）、高等学校（理科）
人間生活環境教育専攻	副専攻Ⅰ	幼稚園、中学校（家庭）、高等学校（家庭）
	副専攻Ⅲ	中学校（技術）、高等学校（工業）
健康・スポーツ教育専攻	副専攻Ⅰ	中学校（保健体育）、高等学校（保健体育）
音楽教育専攻		中学校（音楽）、高等学校（音楽）
美術教育専攻	副専攻Ⅰ	中学校（美術）、高等学校（美術）

※上記のほか、所定の単位を修得することで、「社会教育主事」任用資格、「ピアヘルパー」および「日本体育協会公認スポーツ指導者」の資格を取得できます。

健康・スポーツ教育専攻

学べる分野／ スポーツ哲学、スポーツ社会学、スポーツ心理学、バイオメカニクス、運動生理学、スポーツ医学、衛生学、健康学、各種スポーツ指導法、体育科教育学

～取得できる教員免許状～
中学校教諭一種免許状（保健体育）・
高等学校教諭一種免許状（保健体育）

■専攻の特色

健康科学やスポーツ科学の研究成果をふまえ、学校や地域における健康・スポーツ教育を積極的に推進できる中学校と高等学校の保健体育教員を養成することを目指します。そのため、運動生理学やバイオメカニクス、スポーツ社会学、スポーツ心理学、健康教育学といった保健体育に関する理論をはじめ、実践的指導力を高めるための実技実習や保健体育科教育法など、幅広いカリキュラムを履修します。また、教育実習のほか、地域活動への参加などを通して子どもたちへの理解を深め、現代の健康とスポーツに関する問題に適切な支援を行える実践的かつ専門的な力量を育成します。

美術教育専攻

学べる分野／ 絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術理論・美術史、美術科教育学

～取得できる教員免許状～
中学校教諭一種免許状（美術）・高等学校教諭一種免許状（美術）

■専攻の特色

美術教育専攻は、美術全般にわたる高い専門性と教員としての専門的力量を併せ持ち、教育現場の課題に即応できる中学校と高等学校の美術教員の養成を目標としています。そのため、教育現場や美術館など、地域の関係機関と連携しながら、基礎造形能力の修得、美術の専門性の深化、豊富な臨床的教育体験による美術教育理論と実践的授業展開力の融合などを目指す幅広いカリキュラムを実施します。絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術理論・美術史の各分野で、それぞれの特徴を生かした実技や理論を幅広く学び、それらを基盤に授業の構成をはじめ、教員としての実践的力量を培います。

音楽教育専攻

学べる分野／ 声楽、ピアノ、管弦打楽器、作曲、指揮法、音楽理論、音楽科教育学

～取得できる教員免許状～
中学校教諭一種免許状（音楽）・高等学校教諭一種免許状（音楽）

■専攻の特色

音楽教育専攻では、声楽、ピアノ、管弦打楽器、作曲、音楽教育学の各分野について、専科として1つの分野を深く追究するとともに、副科として幅広い分野も学ぶことができるカリキュラムが組まれています。また、合唱・合奏などの演習に力を注ぎ、各種演奏会や移動音楽教室などの地域に密着した活動が多いことも特徴です。中・高一種免許状（音楽）はもちろん、副専攻によって小学校免許状、中・高他教科免許状、特別支援学校教諭免許状等の取得も可能です。入学試験では、実技を重視する推薦入試と、学科（センター試験）にウェイトを置いた前期日程入試の2種類を実施しています。

主専攻で取得する教員免許状のほか、副専攻の学修を基に教育職員免許法に定められた単位を修得すると、幼稚園、小学校、中学校・高等学校（各教科）、特別支援学校教諭などの免許状を取得することができます。

大学院紹介

大学院 教育学研究科（修士課程）

～取得できる免許状・資格～
各校種・教科に対応した教員専修免許状
臨床心理士受験資格（教育実践開発専攻・臨床心理コース）

教育実践開発専攻

■専攻の特色

3コース（学習開発コース、発達臨床コース、臨床心理コース）からなります。初等教育、特別支援教育に関する高度な専門的知識・技能や教育実践研究力を身につけていきます。また、スクールカウンセラー等として活躍する臨床心理士を目指し、高度な臨床心理学的知識・技能を身につけていきます。

- 学習開発コース
- 発達臨床コース
- 臨床心理コース

教育内容開発専攻

■専攻の特色

7コース（言語系教育コース／国語教育分野・英語教育分野、社会系教育コース、数理系教育コース、自然系教育コース、生活系教育コース、健康系教育コース、芸術系教育コース／音楽教育分野・美術教育分野）からなります。主として中等教育の各教科に関する高度な専門的知識・技能や教育実践研究力を身につけていきます。

- 言語系教育コース
- 社会系教育コース
- 数理系教育コース
- 自然系教育コース
- 生活系教育コース
- 健康系教育コース
- 芸術系教育コース

現職教員一年短期履修コース 各専攻には、現職教員が自らの教員としての資質や専門性の向上を目指せる「1年短期履修コース」が設置されています（臨床心理コースを除きます）。

附属施設紹介

●FD戦略センター

すべての教育プログラムを検討・改善することを通じて、学部（Faculty）の発展（Development）を図る役割を担う組織です。教育学部に開設されたすべての専門教育科目や特色ある教育活動（1000時間体験学修プログラム、面接道場、教師力パワーアップセミナーなど）の工夫・改善を図っていくことに加え、平成22年度からは、学生の適性や志向性、学修の状況や課題を入学時から継続的にフォローし、個々の学生に応じた教育効果・教育支援ができるよう「教師力育成総合支援システム」の運用を開始しました。また教員採用試験に関する新しい情報や実践的アドバイスなどを発信することで採用試験合格を目指す学生を強力に支援する「学部教育情報ブログシステム」の運用、学部の全教職員を対象としたFD研修会の実施などを行っています。

●教育支援センター

島根・鳥取両県の現職教員、大学教員、臨床心理士をスタッフとして、1000時間体験学修プログラム（「基礎体験領域」「学校教育体験領域」「臨床・カウンセリング体験領域」）の企画・運営を行っています。このような活動を通して、学生の皆さんの「教師への路」を力強くサポートします。このうち基礎体験では、県や市町村、学校、社会教育施設、各種団体などからの学生派遣の要請を基に、学生への基礎体験領域プログラムの情報提供や申し込みの受付、全プログラムにおいての事前・事後指導を行っています。

●教師教育研究センター

教員免許状取得に必要な教職科目、教育実習や介護等体験の管理・運営を行う組織です。それらに関する情報の提供、相談への対応を行うほか、教員採用試験や学校現場などの資料、情報検索用のパソコンを設置し、自習やグループワークのためのスペースとしても提供されています。また、現職教員に対する窓口の役割も担い、教員免許状更新講習をはじめさまざまなフォローアップを実施します。学生は在学中はもちろん、卒業して教員になってからも、ここを接点に大学とつながりを持ち、教師力を向上させていくことができます。

●現職教育支援センター

大学院教育学研究科は平成20年度に改組が行われ、教育実践開発専攻と教育内容開発専攻に2年の修士課程のほか、現職教員を対象とした1年短期履修コースが設置されました。この1年短期履修コースの管理・運営組織として平成21年度に設置されたのが、現職教育支援センターです。院生1名に2名の教員が付く指導体制を整え、院生一人ひとりの教育現場に即した研究課題に、よりきめ細かく対応しています。教師教育研究センターとの連携も図りながら、現職教員への教育をさらに充実させていきます。

学びと就職を多面的にバックアップ。

施設設備

●教育研究施設

平成20年度にリニューアルした教育学部棟には、教員養成専門学部の学びを支える充実した教育研究施設が整っています。40人学級の教室を想定した「模擬授業演習室」は、授業研究や採用試験の模擬授業の練習などに利用されています。「大講義室」のほか、パソコン40台が設置されている「総合情報処理センター教育学部分室」、楽器の個人レッスンができる「音楽練習室」、さまざまな実験が可能な「多目的実験室」などがあります。

模擬授業演習室

総合情報処理センター教育学部分室

大講義室

●掲示ホール

教育学部棟の1階には、さまざまな情報を掲示するためのスペースが設けられています。掲示板のほか、液晶ディスプレイも設置され、その日の授業の開講情報や連絡事項などがリアルタイムで発信されています。また、松江市内の川、池、宍道湖・中海などにすむ魚類や水草を集めた水槽が置かれ、憩いのスペースとしても利用されています。

TOPIC

学生の要望に応え、トイレもリニューアル。

平成18年に実施された「満足度調査」において、学生からの要望が特に高かった項目の一つが、トイレの改善でした。教育学部棟のリニューアルでは、それも実現。シャワートイレや暖房便座、センサー式ライトや自動芳香機能などを備えた清潔感あふれる快適空間が好評です。

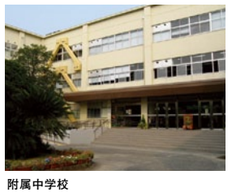
附属学校園

●附属幼稚園・小学校・中学校

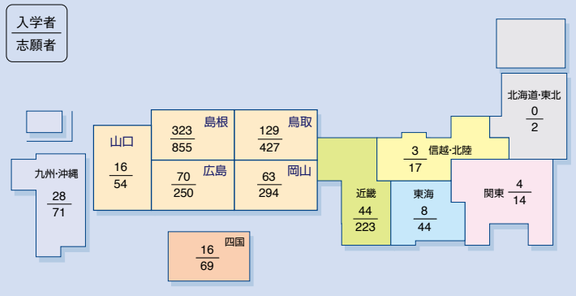
大学の近辺に、附属の幼稚園、小学校、中学校が設置されています。本学部の1000時間体験学修の「学校教育体験」における4年間を通じた継続的・体系的な教育実習は、附属学校園との緊密な連携により可能となっています。

附属幼稚園

附属小学校


附属中学校

DATA ■地域別入学者数・志願者数（平成23年度～26年度）



■出身高校一覧（平成23年度～26年度）

熊谷、成東、小田原、横浜サイエンスフロンティア、高田、富山、野々市明倫、岐山、焼津中央、半田、豊田南、知立東、愛知、神戸、学法津田学園、京都府立工業、西舞鶴、宮津、網野、東稜、洛西、西乙訓、菟道、茸面、近畿大学附属、星陵、宝塚、加古川東、西脇、香寺、龍野、佐用、山崎、姫路工業、豊岡、八鹿、出石、相生、須磨東、宝塚北、姫路飾西、豊岡総合、須磨学園、近畿大学附属豊岡、滝川第二、天理、奈良学園、海南、日高、新宮、鳥取東、鳥取西、八頭、倉吉東、倉吉西、米子東、米子西、米子南、境、鳥取中央育英、鳥取敬愛、米子北、米子松蔭、松江工業高専、安来、松江北、松江南、大東、横田、三刀屋、飯南、平田、出雲、出雲商業、大社、大田、矢上、江津、浜田、益田、津和野、隠岐、松江市立女子、松江東、島根中央、開星、松徳学院、松江西、出雲北陵、石見智翠館、明誠、益田東、岡山操山、岡山大安寺、岡山芳泉、倉敷青陵、倉敷天城、倉敷南、津山、玉島(県立)、笠岡、井原、総社、高梁、新見、邑久、矢掛、勝山、林野、岡山一宮、倉敷古城池、総社南、岡山城東、岡山大安寺中等教育学校、就実、倉敷翠松、広島国泰寺、広島皆実、海田、廿日市、賀茂、加計、安古市、広、呉宮原、尾道北、三原、福山誠之館、府中、油木、大門、庄原格致、三次、舟入、基町、熊野、広島井口、安芸府中、神辺旭、祇園北、沼田、因島、広島、広島女学院、山陽女学園高等部、AICJ、広島県新庄、広島文教女子大学附属、盈進、銀河学院、英数学館、近畿大学附属東広島、岩国、柳井、下松、徳山、山口、山口中央、宇部、萩、西京、高水、城東、富岡東、富岡西、池田、坂出、善通寺第一、高松第一、高松西、高松北、愛媛大学附属、今治北、宇和島東、松山西、済美、八女学院、龍谷、長崎南、島原、猶興館、対馬、海星、青雲、鹿本、大分上野丘、大分舞鶴、佐伯鶴城、大分、宮崎西、宮崎日本大学、加世田、川内、志布志、鹿屋、屋久島、鹿児島玉龍、松陽、宮古、八重山

奨学金・授業料免除制度

●奨学金制度

日本学生支援機構奨学金と、地方公共団体または民間団体による奨学金制度があります。また、本学独自の制度として、4月と10月に本学の提携先の銀行から授業料相当額の融資を受けることができる「授業料奨学融資制度」も設けています。

●授業料免除制度

経済的理由により授業料の納入が困難な場合、各期（前期・後期）ごとの授業料の全額または半額を免除します。また、2年次以上の学生を対象に、前年度の成績をもとに選考し、後期分の授業料を全額免除する、成績優秀者に対する免除制度もあります。

就職支援

●支援の流れ

教員養成に特化した本学部では、4年間のカリキュラムそのものが教員を目指す学生への就職支援でもあります。主なものとしては、まず1年次の「学校教育実践研究I」で、子どもの前で自己紹介をするといった基礎的な技能を学びながら教員としてのスタートラインに立ちます。3年次には、教育職員免許法に定められた時間のほぼ倍にあたる充実した教育実習を実施。4年次には、先輩の現職教員の話を聞く機会も設けられた「教師力パワーアップセミナー」などを通じて、教職への意志をより確かなものにしていきます。

●就職支援室

全学の就職支援室（キャリアセンター）とは別に、教職のための支援室が教育学部棟内に設けられています。実績豊富な本学部ならではの先輩の生の声に基づく資料、教員が編集したテキストブックなどを自由に閲覧でき、個別の願書添削指導や面接指導にも対応。さらに、合格体験報告会、面接対策講座なども定期的に開催し、さまざまな面からきめ細かくサポートします。

夢をかなえた先輩たちからメッセージ

母校で教育実習。そこが今は職場です。

益田市立高津中学校教諭
桐 雅幸（平成26年3月卒業）

在学中の教育実習では、授業実践力をとことん鍛えていただきました。指導案づくりや実験準備などを指導教員や実習生と夜遅くまで話し合ったことは良い思い出です。1000時間体験学修では、実習セメスターを活用して母校で教育実習をしたことが印象に残っています。幸運なめぐりあわせで、そこが私の職場にもなりました。中学校の理科の教員として子どもたちと接し、さまざまな場面に直面する中で、教育実習や1000時間体験学修で経験したことが生かされていると感じます。経験を通して得た方法を試してみて、うまくいかないこともありますが、改善することで新たな力にできます。子どもたちが充実した学校生活を通じて幸せを感じられるようサポートしていくことが、私の永遠の目標です。

豊富な体験や出会いなど、大学で得たすべてが糧に。

神戸市立垂水小学校教諭
原田 由美子（平成25年3月卒業）

私は中学校・高校美術での採用でしたが、小学校の図工専科としての勤務となり、少し戸惑いました。しかし、大学で幼稚園から中学校まで幅広い校種の教育実習を体験していたので、対応することができました。また、1000時間体験学修では美術館でワークショップを行うなど、地域と連携した活動にも取り組みました。その体験は今、子どもとのかかわりはもちろん、職員や保護者、地域の方との関係づくりに役立っています。ほかにも、美術教育専攻で専門的に学んだ教科の知識や技術、親身になって指導やアドバイスをしてくださる先生との出会い、同じ目標を持つ仲間と頑張った日々など、一つひとつが原動力となり、今の自分につながっています。素敵な後輩たちがここからまた巣立つことを楽しみにしています。

DATA ■就職実績

平成26年5月現在

卒業		就職							進学	その他
					就職決定者業種別内訳					
卒業年次	卒業者数	就職希望者数	就職者数	就職率	教員	公務員	企業	その他	大学院	
平成26年3月	166	136	128	94.1%	93（教諭 38 / 講師 55）	9	24	2	31	7